

文章からの感情等の特徴抽出について

200912012 小椋 聰也

現在、電子メールは人々の間に広く普及しており、連絡等でメールが使われることが多い。そのため、その文章の中に相手の様々な感情が含まれていることが多い。人間であれば、文章を読むことで相手の感情を多少は理解することができますが、文章中に含まれる感情等の特徴をコンピュータに自動的に判断させることができないかと考えた。電子メールを受信した時点でそのメール文章に含まれる感情を自動的に読みとることができれば、返信の際に、相手の感情を読みとれなかつたことで相手に不倫換な思いをさせてしまうことを減らすことができるだろう。

過去の研究で、ブログの文章の解析を行い、感情等の特徴抽出を試みたものがある。そこで考察された、文章を解析する 3 つの方法をもとに、メールの文章から相手の感情等の情報を抽出する方法を考察した。そして、過去の研究で作成されていたプログラムを用いて実際に文章を解析し、過去の研究で今後の課題とされていた「文字数と平仮名の数は相関係数が高く、独立した指標とは言えないかもしない」ということや他の指標間の関係に注目し、実験を行った。

過去の研究で解析された人物とは異なる 2 人のブログの文章を解析した結果、文字数と平仮名の字数の相関係数は高く、運動していると言えるため、平仮名の字数は独立した指標として使用することは難しいことがわかった。また、点数の計算方法は今回の計算方法では不正確だつたため、より良い計算方法を考えることが今後の課題である。

ウインドウマネージャによるアクセシビリティの改善について

200912016 工藤 健

パソコンをマウスやキーボードを使って操作することは普通の人には問題はないが、特に高齢者や目、腕などの障害を持つ人にとて使いにくいことが多い。それを解決するには、利用しやすさ、アクセシビリティを改善することである。

X ウィンドウシステムに含まれるグラフィカルユーザインターフェースは多数のウィンドウマネージャが備えており、各種類ごとにデスクトップ環境の外観、マウス、キーボードなどの操作が異なっている。その環境で障害者がパソコンを使用する場合、操作性と使いやすさを考慮しなければならない。

本研究ではウインドウマネージャ Fvwm2 のデスクトップ環境を選び、キーボードナビゲーションのフォーカス操作にウンドウの位置対象として左上、左下、右上、右下の条件を追加する改良を行なった。改良前と改良後を比較するとウンドウをフォーカスする巡回が少なくなり、ボタンの押す回数を減らすことができた。

しかし、問題点として、位置対象を四つのキーの組合せで押すため覚えるのに時間がかかることと、パソコンに慣れた熟練者だけ扱える欠点があつたため、位置対象を上、下の二つに少なくした初心者が扱いやすい改良も行なつた。